



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」122号
Issue Date	2006-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66308
Type	journal
File Information	yuin122_2.pdf, 後半 : 新企画・出張報告・教員著作寄贈図書・会議など



新 企 画

「本は脳を育てる ～北大教員による新入生への推薦図書～」 はじめました！

「本は脳を育てる」とは？

附属図書館北分館では、全学教育担当教員に依頼し、主に低年次学生向けに推薦文、紹介文付きで資料の推薦をしていただく企画を始めました。推薦文はデータベース化し、下記サイトで公開していきます。

「本は脳を育てる」趣旨

〈推薦文執筆依頼文より〉

附属図書館北分館長 大 平 具 彦

平素より、北分館の運営にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

北分館は、全学教育への教育サポートを主要な任務としており、今後も北海道大学における教養教育（コアカリキュラム）、基礎教育に資する図書・資料を一層充実させてゆきたいと考えております。近年、日本の教育全体において基礎学力の低下が問題となっており、大学も例外ではありません。また、確かに情報通信技術は飛躍的に発展いたしました。一方で、図書こそが知的基礎体力を育てる最も豊かな資源であることへの認識もあらためて高まりつつあるところです。こうした状況にあって、北大の教育全体の中で、北分館の果たす役割は極めて大きいものと考えております。

そこで、北分館では、知的資源としての図書という原点に立って、長期的な継続性をも踏まえながら、来年度より新たに「本は脳を育てる～北大教員による新入生への推薦図書～」という企画を立ち上げることにいたしました。趣旨はこの企画タイトルから充分ご理解いただけたと思いますが、併せてすぐお分かりの通り、当企画は、全学教育を担当されるお一人お一人の先生のご協力があってはじめて花開いてゆくものであります。また、対象としては新入生を前面に出してはおりますが、知的基盤をつくる図書ということでありますので、当然ながら、内容的には低年次学生全体を対象としています。

なお、これまでの「教員選定図書」の制度は、今後も継続してゆきます。今回の新企画を新たに加えて、これらを有機的に組み合わせて、北分館の選書体制の充実を図ってゆきたいと考えています。

教員は、これまで教育は専ら教室の中で行なってきましたが、知的基礎力を育成することが全学教育、コアカリキュラムの眼目であることを考えれば、入学初年度、次年度の学生にどのような本を読ませるか、担当の授業と併せて、教育の極めて重要な柱であります。今回のような企画は、東京大学、千葉大学、広島大学などをはじめ、他の大学でもスタートさせております。これは、法人化、さらには平成18年度からの新学習指導要領のもとでの新入生の入学等々を背景とする中で、大学の知的活力の発展は、大学教育の初期段階で学生の知的基礎力をどう育成するかにある、ということが広く認識されてきたからであると思われます。

以上のような趣旨と背景をご理解いただき、先生方の教育活動の一環として、是非この企画にご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお、「本は脳を育てる」サイトは下記からご覧いただけます。

【<http://www.lib.hokudai.ac.jp>】

本は脳を育てる

本は脳を育てる ～北大教員による新入生への推薦図書～

推薦文受付中です！

ジャンルインデックス

- 心や思考の仕組みを探る (0)
- 科学/思想/心理学/哲学 (10)
- 現代社会について考える (10)
- 政治/経済/法/文化/社会 (10)
- 歴史に分け入る/世界を知る (0)
- 世界史/日本史/地理 (0)
- 文学・芸術との対話 (40)
- 文学/美術/音楽 (0)
- 科学の世界 (0)
- 科学史/数学/物理/化学 (0)
- 生命とは何だろう (0)
- 生物学/医学/農学 (0)
- 地球と私たち (0)
- 地学/宇宙 (0)
- 技術の最先端 (0)
- 工学/建築/情報 (0)
- 健康と社会 (0)
- スポーツ/健康 (0)
- 読物/漫画 (0)

推薦教師所属別インデックス

- 文学研究科 (0)
- 教育学研究科 (0)
- 法学研究科 (0)
- 経済学研究科 (0)
- 理学研究科 (0)

1. 推薦者: 鷗田明洋 所属: 低温科学研究所

生態系や地球環境が維持されるシステムの理論科学を数式を使わずに解説

持続可能性・環境保全のための複雑系理論入門 / サイモン・レヴィン著; 重定南 著, 高須大悟訳 - 文一総合出版, 2003.10 HOT TOPIC

地球環境が今後どのように変化していくのかについては様々な情報を利用可能である。しかし、なぜそう考えられるのか、を知るための科学的な基礎知識は、専門家以外には得られにくい。その科学...

ジャンル: 現代社会について考える(環境問題) 入力日: 2006-02-10
全学教育担当年度: 平成18年度 授業科目名: 環境と人間(寒冷圏の科学)

2. 推薦者: 鷗田孝 所属: 文学研究科

実証的東北アジアの文化と言語の現在を語り解く！

東北アジア諸民族の文化動態 / 鷗田孝編著 - 北海道大学図書刊行会, 2002.2 録音書

日本、ロシア、中国、モンゴルを含む東北アジアには、広大で多様な環境が展開している。それは、民族学(文化人類学)的に北アジア、中央アジア、東アジアを含む地域である。生態的にも、地...

ジャンル: 現代社会について考える(文化論) 入力日: 2006-02-09
全学教育担当年度: 平成18年度 授業科目名: 社会の認識(北方の文化と生態)

3. 推薦者: 鷗田孝 所属: 文学研究科

空想すくすく、ノンフィクション文庫版

カナダ・インディアンの世界から / 鷗田孝作 - 福音館書店, 2002.11 録音書

http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp - 二重言語国家・日本 (本は脳を育てる～北大教員が新入生にすすめる本～) - Microsoft Internet Explorer

本は脳を育てる

本は脳を育てる ～北大教員による新入生への推薦図書～

推薦教師: 大平具彦 所属: 言語文化部

全学教育担当年度: 平成18年度 授業科目名: 人間と文化(国際広報メディア学入門, フランス語)

世界を知るには自分を知ろう——日本の文化のDNAを知る最良の書

タイトル(書名): 二重言語国家・日本

著者: 石川九楊著

出版者: 日本放送出版協会

出版年: 1989.5

ISBN: 4140018593

北大所蔵: 北大所蔵1 北大所蔵2

クリックすると北大OPAC(蔵書検索)で該当図書を表示します。

推薦コメント

著者は書道家として知られる一方、文字を通じ、われわれの日本文化(漢字・かな文化)について、中国文明(漢字文明圏)、ヨーロッパ文明(アルファベット文字文明圏)など世界全体の文明構造の中から解き明かす著作と論考を数多く発表しており、本書はその代表作。われわれが何気なく使っている漢字、かな、そして明治以降のアルファベットを通して、われわれの歴史、文化、ものの考え方の特徴が、それこそ目からウロコが落ちるように見えてくる。のみならず、現在の米中、日中間関係すらも透けて見えてくるのは著者の思索の深さゆえか。同著者の『<二重言語国家・日本>の歴史』(青灯社、2005)も併せてお勧めしたい。

「二重言語国家・日本」の歴史 / 石川九楊著

北大所蔵2をクリック！

Copyright (C) Hokkaido University Library. All rights reserved.
著作権・リンクについて お問い合わせ

推薦文は随時受付しております。推薦された資料を北分館で所蔵していない場合は購入いたします。なお、全学教育担当ではなくとも、上記趣旨に賛同していただける場合は教員であればどなたでもご推薦いただけます。上記サイトからご推薦いただけますので、先生方からの推薦文をお待ちしております。

出張報告

トロント大学, ロチェスター大学, DASER 2 Summit

情報サービス課相互利用係 小坂 麻衣子
 情報システム課システム管理係 鈴木 雅子

国立情報学研究所の最先端学術情報基盤整備事業等(CSI)に係る機関リポジトリに関する調査・研究の一環として、平成17年12月1日(木)にカナダのトロント大学図書館^{*1)}、12月2日(金)に米国のロチェスター大学図書館^{*2)}を訪問し、12月3日(土)4日(日)に米国メリーランド大学構内にて開催されたDigital Archives for Science & Engineering Resources (DASER) 2 Summit^{*3)}に参加しました。

機関リポジトリとは、北海道大学でも「北海道大学学術成果コレクション：HUSCAP^{*4)}」として構築をおこなっている、機関の構成員が執筆した学術成果の原稿本体を大切に保存し、webで公開することにより論文等の可視性を高めることを主眼としたものです。

北米では日本に先行して多くの大学で図書館が中心となってHUSCAPのような事業を行っていますが、わけでも、トロント大学図書館、ロチェスター大学図書館は、電子ジャーナルと機関リポジトリに収録された論文を一括検索できるシステム開発のプロジェクトに参加し、大変活躍しています。それぞれ、担当者の方に、その動向についてお聞きしました。なお、北大図書館でもこれらの一括検索システムにHUSCAP収録論文が対象となるよう開発元に依頼済みです。また、例えば、リンクリゾルバにも対応できないか等、さらに収録論文の可視性を向上させる方法について調査を続けています。

トロント大学図書館、ロチェスター大学図書館の担当者とは、機関リポジトリ運営の方法、実際の研究者とのやりとり、現在の問題点などの情報交換をおこないました。トロント大学図書館でも、ロチェスター大学図書館でも、研究者の論文等を広く公開する受け皿となっていることに誇りを持って事業を進めていると感じました。



トロント・ロチェスター間の国際便

DASER 2 Summitでは、オープンアクセス (Open Access) や機関リポジトリ (Institutional Repositories) に関する15件の発表があり、北米を中心とした各国から約50名の図書館員、学会・出版関係者、研究者等が集まり、活発な議論と情報交換が行われました。

本学のHUSCAPの取り組みを進展させていくにあたっては、北大で産み出されるより多くの研究・教育成果(コンテンツ)を収載・公開していくことが、目下の大

きな課題の一つとなっています。この課題を中心に、歩を進めている北米での機関リポジトリを巡る状況を知ることが、同会議に参加した最大の目的でした。

機関リポジトリの運用についての事例報告としては、ペンシルベニア大学やバージニア大学の図書館から発表がありました。これらの大学では、先に訪問した両大学でも感じたことですが、収載対象となる論文情報の収集作業や機関リポジトリ普及のための広報活動については共通する部分も多く感じた一方、専門の主題分野を持つサブジェクトライブラリアン（Subject Librarians）がコンテンツの収載においても活躍しているとの点が印象的でした。また、コンテンツを拡充するためには、研究者が進んで機関リポジトリに論文を掲載したくなるような環境作りが重要であることを感じました。



この北米出張により、海外の関係者との交流・情報交換を通じて、HUSCAPのこれまでの取り組みや方向性について広い視点から検討する機会を得られたことは非常に有意義な経験であり、今後の活動に生かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、今回の出張にあたって、国立情報学研究所ならびに附属図書館の皆様から多大なご配慮をいただいたことに感謝いたします。

*1) <http://main.library.utoronto.ca/>
T-Space <https://tspace.library.utoronto.ca/>

*2) <http://www.library.rochester.edu/>
UR-Research <https://dspace.lib.rochester.edu/index.jsp>

*3) <http://www.daser.org/program.html>

*4) HUSCAP <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/index.ja.jsp>

国際会議Open Repositories 2006とクイーンズランド工科大学・オーストラリア国立大学訪問

情報システム課目録情報係 堀 越 邦 恵

1. はじめに

このたび、最先端学術情報基盤整備事業等に係る調査・研究の一環として、シドニーで行われたリポジトリの国際会議「Open Repositories 2006」に参加しました。また、リポジトリへの登録を大学構成員の義務としているクイーンズランド工科大学とオーストラリアのリポジトリ推進大学の一つであるオーストラリア国立大学を訪問し、それぞれ大学のリポジトリへの取り組みと現況について伺いましたので、ここに報告します。



Open Repositories 2006 日本からの参加者とAPSRのAdrian Burtonさん。会場前にて。

2. Open Repositories 2006 ^{*1}

APSR (Australian Partnership for Sustainable Repositories) が主催するリポジトリに関する国際会議です。2006年1月31日から2006年2月3日の会期で、シドニー大学で開催されました。

初めの2日間 はリポジトリ運用ソフトウェア「DSpace」のユーザ会議に参加しました。このなかで、本学理学研究科数学専攻助手行木先生により本学と日本のリポジトリの状況についての発表が行われ、北海道大学附属図書館「HUSCAP ^{*2}」・理学研究科数学専攻の「数学の海 ^{*3}」・国立情報学研究所の「JuNii ^{*4}」についての説明がありました。

3 日目のフォーラム「The Well-Integrated Repository」では、リポジトリと大学内の各サービス(例：e-learningシステム, 学務システムなど)／大学外のリポジトリやその他各サービスとの連携についての話題や、セキュリティ・認証に関するフレームワークについての発表がありました。

4 日目のシンポジウム「Managing Openness in Digital Repositories」では、オープンソースソフトウェアやクリエイティブ・コモンズなどのリポジトリの周辺に関する話題や、コンテンツの管理・保存・アクセスの制御などについて活発な意見が交わされていました。

3. クイーンズランド工科大学 (Queensland University of Technology : QUT)

クイーンズランド工科大学 (QUT) は、学生数約40,000人・スタッフ3,500人の総合大学(名称に「Technology」とついてはいますが)です。QUTでは「研究成果を大学のリポジトリに登録すること」が義務付けされており、世界のリポジトリのなかでも登録増加率はトップレベルにあります。

QUTのリポジトリ「QUT ePrints^{*5}」は2003年11月末より運営を開始し、2006年2月現在、約2,600件の論文が登録されています。登録義務のポリシーは2003年11月にQUT University Academic Boardによって承認・2004年1月から実施されています。「義務」とはいつても罰則があるわけではなく、このポリシーに従った形で広報等の全学キャンペーンを実施し、リポジトリの認知と登録数向上に日々努めているのだそうです。登録方法についても、研究者は必要最低限の情報のみで登録し、詳しい情報は図書館の目録担当者が登録するなど、研究者の負担がなるべく軽くなるような工夫をしているとのことでした。

4. オーストラリア国立大学 (Australian National University)

オーストラリア国立大学 (ANU) は学生数約8,500人・スタッフ1,250人で、年間予算の約80%を研究に費やしている、研究志向の大学です。

ANUでは2001年からEprintsによるリポジトリを構築してきましたが、現在DSpaceをベースにした「Demetrius^{*6}」にデータ移行中とのことでした。ANUでは論文だけでなく写真や音声などさまざまなデータ形式のものを収録対象として扱っています。リポジトリの収録対象についての考え方を伺ったところ、「特に限定しなければならない理由がない。収録できるものであればどんなものであってもかまわない」と考えているのだそうです。

登録については「義務」にすることはせず、研究者が自発的に登録しているとのことでした。ANUでは、新しいサービスはどのようなものであってもまずインフラを整え、良いものであることを宣伝・認識したうえで自発的に使われるべきだ、と考えているそうです。

5. APSR (Australian Partnership for Sustainable Repositories)

オーストラリア唯一の国立大学であり、首都キャンベラに位置することから、オーストラリアの大学関係の政府との交渉についてはANUが窓口になっており、APSRについてもその事務局はANUにあります。このことから、APSRの活動についてもお話をうかがうことができました。

APSRはオーストラリア政府のInnovative Action Plan for Future the System Infrastructure Initiativeによる2004年から2006年の3年間の期限付きプロジェクトで、ANU、シドニー大学、クイーンズランド大学の3大学と、国立図書館、Australian Partnership for Advanced Computingの計5機関で

構成されており、リポジトリのプロモーション活動に対する支援、ドキュメントのデジタル化及び保存に関する支援や、これらの活動を通して得られた成果を広く社会に還元することを目的としています。Open Repositories 2006も、ASPRの広報活動の一環として開催されたものです。

各参加機関ではそれぞれ異なったプロジェクトを行っており、その成果はASPRのWebページで見ることができます^{*7}。期限が切れた後ASPRがどうなるのかは未定だそうですが、各プロジェクトはそれぞれの大学内でも別途支援を受けているので、ASPRがなくなったからといってプロジェクトで行われている研究・開発が終わるということはないのだそうです。

6. おわりに

Open Repositories 2006を通しての全般的な印象として、「リポジトリ」の考え方が、オープンアクセス運動の一環としての立場から研究者のコミュニティ生成ツールの一つとしての立場へとシフトしてきているように感じました。また、QUTやANUの話を聞くにつれ、苦勞しているポイントは日本も海外も同じであり、登録数を一気に増大させる安直な方法というものはなく、地道な活動を続けていくことが一番なのかな、とあらためて感じました。

最後に、今回の訪問の機会を与えてくださった関係者の皆様、訪問先へのアポイントメントやスケジュール調整などをお手配くださいました岡山大学の北條様、現地に同行くださいました各大学の皆様、会議にて発表してくださいました行木先生、快く送り出してくださいました附属図書館の皆様、心よりお礼申し上げます。

*1) http://www.apsr.edu.au/Open_Repositories_2006/index.htm

*2) <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>

*3) <http://coe.math.sci.hokudai.ac.jp/literature/db/index.htmlja>

*4) <http://ju.nii.ac.jp/>

*5) <http://eprints.qut.edu.au/>

*6) <http://dspace.anu.edu.au/>

*7) <http://www.apsr.edu.au/> のCurrent Projectsで確認することができる

教員著作寄贈図書

(平成17年11月1日～平成18年2月28日)

寄贈者	所属部局	寄 贈 図 書	所 在
岩本 隆茂	名誉教授	非対面心理療法の基礎と実際：インターネット時代の カウンセリング／岩本隆茂，木津明彦編．一培風館， 2005.12	本館・開架閲覧室
			分館・開架一般図書
池田 証壽	文学研究科・ 文学部	日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開／石塚晴通教 授退職記念会編．一汲古書院，2005.5	分館・開架一般図書
煎本 孝	文学研究科・ 文学部	The eternal cycle : ecology, worldview and ritu- al of reindeer herders of Northern Kamchatka / Takashi Irimoto. - National Museum of Ethnol- ogy , 2004. - (Senri ethnological reports ; 48)	本館・北方・洋書
煎本 孝	文学研究科・ 文学部	Circumpolar ethnicity and identity / edited by Takashi Irimoto, Takako Yamada. - National Museum of Ethnology , 2004. - (Senri ethno- logical studies ; no. 66)	本館・北方・洋書
加藤 博文	文学研究科・ 文学部	海と考古学／海交史研究会考古学論集刊行会編． 一六一書房，2005.2	本館・開架閲覧室
逸見 勝亮	教育学研究科・ 教育学部	現代の視座／佐藤秀夫著．一阿吽社，2005.11．一 (教育の文化史／佐藤秀夫著；小野雅章[ほか] 編 集委員；4)	本館・開架閲覧室
			分館・開架一般図書
須田 力	教育学研究科・ 教育学部	雪国の生活と身体活動／須田力編著．一北海道大学 出版会，2006.2	本館・開架閲覧室
			分館・開架一般図書
須田 力	教育学研究科・ 教育学部	Physical activity, health promotion, and regional development in Northeast Eurasia / edited by Tsutomu Suda, Hideki Asao, Kiyoshi Moriya. - Kyodo Bunkasha , 2003.8	本館・開架閲覧室
			分館・開架一般図書
松久三四彦	法学研究科・ 法学部	総則／山田卓生[ほか] 著．一第3版．一有斐閣， 2005.4．一(有斐閣Sシリーズ；1．民法；1)	本館・開架閲覧室
田中 拓道	法学研究科・ 法学部	貧困と共和国／田中拓道著．一人文書院，2006.1.	本館・開架閲覧室
岸 玲子	医学研究科・ 医学部	職業・環境がんの疫学：低レベル曝露でのリスク評 価／岸玲子監修；村田紀[ほか] 執筆．一篠原出 版新社，2004.2	本館・開架閲覧室
			分館・開架一般図書
三島 徳三	農学研究科・ 農学部	農業市場論の継承／三島徳三著．一日本経済評論 社，2005.11	本館・開架閲覧室
			分館・開架一般図書

ご惠贈誠にありがとうございました。図書館では本学教員が執筆した図書資料を収集しています。
新たに本を出版される際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。

会議 (17.11. 3 ~18. 3.17)

【学 内】

◎図書館委員会

○第203回〈3月17日（金）〉

議題

1. 図書館委員会小委員会設置要項の一部改正について
 - 1) 学術研究コンテンツ小委員会設置要項
 - 2) 点検評価小委員会設置要項
 - 3) 学術成果発信小委員会設置要項
2. 北海道大学学術成果コレクションの構築推進について
 - 1) 学術成果発信小委員会報告書について
 - 2) 北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）の正式運用について
3. 学術研究コンテンツ小委員会からの提案について
4. 国立大学法人北海道大学情報セキュリティポリシーへの対応について
5. 第5期遡及入力計画について
6. 平成17年度附属図書館点検評価について

報告事項

1. 平成18年度附属図書館本館・北分館開館日程について
2. 学術研究コンテンツ小委員会（平成17年度第5回）について
3. 学術成果発信小委員会（平成17年度第1－4回）について
4. 附属図書館点検評価小委員会（平成17年度第1回）について
5. 平成19年度概算要求について
6. 平成18年度年度計画案について
7. 北分館の改修について
8. 平成17年度（春期）本館書庫資料の蔵書点検について
9. 平成17年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）について
10. 平成16年度財団法人田嶋記念大学図書館振興事業団の助成金について
11. 図書館情報システムの機器更新計画について
12. 平成17年度第2回附属図書館講演会について
13. 小樽商科大学学生の本学図書館利用延長について
14. アスベスト使用状況の調査結果について
15. 図書関係事務組織の在り方について
16. 国立大学図書館協会会長声明について

◎北分館委員会

○第142回〈11月11日(金)〉

議題

1. 附属図書館北分館の改修について
2. 教員選定図書の推薦について
3. 北分館書庫の狭隘化に伴う資料配置計画について

報告事項

1. 附属図書館北分館資料選定小委員会要項の改正について
2. 平成17年度北分館事業計画の進捗状況について

◎学術研究コンテンツ小委員会

○平成17年度第5回〈2月9日(木)〉

◎点検評価小委員会

○平成17年度第1回〈3月10日(金)〉

◎学術成果発信小委員会

○平成17年度第1回〈12月5日(月)〉

○平成17年度第2回〈1月16日(月)〉

○平成17年度第3回〈2月13日(月)〉

○平成17年度第4回〈3月6日(月)〉

【学 外】

◎北海道地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議

○〈11月30日(水)〉(北海道大学)

◎北海道地区大学図書館協議会

○第1回幹事館会議〈3月14日(火)〉(北海道大学)

学術成果発信小委員会委員名簿(平成17年度)

平成17年11月24日現在

区 分	職名	氏 名	電話	任 期	備 考
医学研究科	教 授	櫻 井 恒太郎	6017	17. 11. 24～19. 3. 31	委員長 第3号委員
国際広報メディア研究科	助教授	橋 本 聡	5391	17. 11. 24～18. 3. 31	第1号委員
言語文化部	教 授	高 橋 吉 文	5392	17. 11. 24～19. 3. 31	第1号委員
理学研究科	教 授	新 井 朝 雄	2616	17. 11. 24～18. 6. 30	第2号委員
工学研究科	教 授	工 藤 昌 行	6344	17. 11. 24～18. 3. 31	第2号委員
医療技術短期大学部	教 授	大宮司 信	3387	17. 11. 24～19. 3. 31	第3号委員
情報基盤センター	教 授	野 坂 政 司	3227	17. 11. 24～19. 11. 23	第4号委員
学術国際部研究協力課	課 長	青 木 雄 二	2161	17. 11. 24～	第5号委員
附属図書館情報システム課	課 長	加 徳 健 三	2563	17. 11. 24～	第6号委員
経済学研究科	教 授	濱 田 康 行	3174	17. 11. 24～19. 11. 23	第7号委員
理学研究科	助教授	栃 内 新	4463	17. 11. 24～19. 11. 23	第7号委員
理学研究科	助 手	行 木 孝 夫	4439	17. 11. 24～19. 11. 23	第7号委員

人 事 往 来

【平成18年1月1日付発令】

[転入・配置換等]

木 浪 昇 附属図書館情報管理課図書館専門員（北海道教育大学学術情報室総括主査）
 松 尾 博 朋 附属図書館情報管理課図書受入係長（北見工業大学情報図書課利用サービス係長）
 土 田 健 治 薬学研究科・薬学部図書係長（附属図書館情報管理課図書受入係長）

[転出等]

小 川 聡 旭川医科大学教務部図書館情報課長（附属図書館情報管理課図書館専門員）
 高 橋 鉄 雄 北海道教育大学学術情報室総括主査（薬学研究科・薬学部図書係長）

